

スターチス新品種の育成

紀州ファインピンク、紀州ファインブルー、紀州ファインパープル

1. はじめに

暖地園芸センターでは、スターチスのオリジナル品種開発に取り組んでおり、これまでに「紀州ファインバイオレット」など紀州ファインシリーズ7品種を育成してきました。近年は、県育成オリジナル品種として初となるピンク系の作出を目指すなど花色の充実を目標に育種を行っており、昨年度、新たに3品種を育成しましたので紹介します。

2. 育成経過

2010年～2012年に、県内で育成された品種・系統を混植したハウス内で自然交配させ、交雑個体を得ました。その中から早生で花色や花房の形質がよい個体を選んで組織培養により増殖し、特性調査や生産力検定を行うことで有望系統を選抜しました。その結果、ピンク系、ブルー系、紫系各1系統が有望であったため、それぞれ「紀州ファインピンク」、「紀州ファインブルー」および「紀州ファインパープル」と命名し、育成を完了しました。なお、3品種とも2015年3月に品種登録出願を行い、同年8月24日に出願公表されています（出願番号：第30048号、第30049号、第30050号）。

3. 「紀州ファインピンク」の特性

「紀州ファインピンク」の花色は、これまでの県オリジナル品種にはない鮮やかなピンク色です（写真1）。切り花長は77.8cmで高性の「アルテミスピンク」と同程度、花房数は10.5個で対照品種より多くなります（表1）。また、花房数は多いですが、分枝が横に張らないため採花時に枝がからまることが少なく、作業性がよい品種です（写真1）。

本品種の収量は12.5本（春の彼岸まで）で、「アルテミスピンク」と「エターナルピンク」の中間程度ですが、切り花長が長く、花房数が多いため、2L率が80%と高く、秀品を採花しやすい品種です（表1）。



写真1 「紀州ファインピンク」

表1 「紀州ファインピンク」の切り花特性

品種名	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	花房数 (個)	収量 (本/株)	2L率 (%)
紀州ファインピンク	77.8	4.9	10.5	12.5	80.0
アルテミスピンク	76.4	4.9	6.1	15.3	71.2
エターナルピンク	84.6	6.0	7.9	10.9	80.7

調査期間：2014年11月6日～2015年3月17日

調査場所：暖地園芸センターガラス温室

栽培概要：2014年9月10日定植、株間30cm、条間40cm、2条千鳥植え、最低夜温3℃で管理

4. 「紀州ファインブルー」の特性

「紀州ファインブルー」の花色は、透明感のある淡い紫色です（写真2）。本品種は生育初期から極めて草丈が高く、切り花長は85.3cmで対照品種より長くなります（表2）。また、花茎が太くしっかりとし、花房数も多いため切り花にボリュームがあります。

収量は14.1本で対照品種よりやや少ないですが、2L率は89.4%と高く、秀品を採花しやすい品種です（表1）。



表2 「紀州ファインブルー」の切り花特性

品種名	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	花房数 (個)	収量 (本/株)	2L率 (%)
紀州ファインブルー	85.3	5.8	9.2	14.1	89.4
アナブルー	73.6	4.7	8.5	15.7	72.6
インペリアルラベンダー	76.1	4.2	8.6	16.8	83.3

栽培概要等は表1と同じ

写真2 「紀州ファインブルー」

5. 「紀州ファインパープル」の特性

「紀州ファインパープル」の花色は紫色で、既存オリジナル品種の「紀州ファインバイオレット」（濃い青紫色）よりやや淡い色合いです（写真3）。

本品種は、対照品種と比較するとややボリューム感に欠ける面がありますが、収量は19.0本と多く、そのうち2Lは15.6本で収量性がとても高い品種です（表3）。



表3 「紀州ファインパープル」の切り花特性

品種名	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	花房数 (個)	収量 (本/株)	2L率 (%)
紀州ファインパープル	79.8	5.1	7.8	19.0	82.1
紀州ファインバイオレット	86.4	6.0	7.0	15.6	86.5
サンデーバイオレット	93.3	5.3	10.8	13.6	91.9

栽培概要等は表1と同じ

写真3 「紀州ファインパープル」

6. おわりに

今回育成した新品種については、来年度から生産者に利用していただけるよう種苗生産の体制を整えているところです。また、「紀州ファインピンク」の育成により、オリジナル品種に主要な花色がそろいましたが、今後もスターチスの育種を継続し、よりよい品種を提供できるよう努めていきたいと考えています。

（育種部 小川 大輔）